

第3回(2月22日)八尾翠翔高等学校 学校運営協議会

【学校の現状について】

- ・コロナについて
学校閉鎖はなし。1. 2年生は50%がすでに罹患。
4年ぶり制限のない卒業式。
- ・3つの変化
 - ① 部活動大阪モデル→2校合同での部活動（本校はなし）
 - ② 全校一斉退庁日
 - ③ 校内運営効率化（さくら連絡網、閉庁日、文書のペーパーレス化）
- ・生徒の表彰
大教大の作文コンクール 最優秀賞を受賞（本校2年平賀君）
※19作品から2作品が受賞※
- ・説明会(2月17日)→現段階での希望調査 135名/240名
- ・夏に教室のエアコンが新しく。トイレも改修。今後教室設置のスクリーンも新調予定。

【R5年度授業アンケート結果】

- ・実技教科の点数が高い。
- ・理系強化が低い、昨年よりは増加。

【R5学校教育自己診断の結果】

- ・生徒の回答率が高いが、保護者、教員（google form）の回答率が低い。→要改善
- ・全体的には数値が増加。
- ・例年と違い3年生だけでなく、1年生の結果も良好。
- ・「入学して良かった」→1年生：生徒 59.2% 保護者：83.3%
- ・差が大きい
- ・22期は定員割れした学年だが、6割近くが肯定的意見なのは、高いとっていいのでは？
- ・教員の取り組みが良かった？
- ・指導スタイルの変化が影響
- ・生徒アンケート結果→18項目中8項目で生徒の肯定的意見が80%超え
(入学してよかった・楽しい・先生の指導は適切 など。) →保護者にも通知済み。
家庭での学習時間を確保している、PTA活動が活発→肯定率66%以下で、要改善
- ・保護者アンケート結果→18項目中9項目で肯定的意見が90%超え。
- ・教員アンケート結果→18項目中6項目で肯定的意見が97%~100%

【R5年度学校経営計画評価について】

- ・「担任以外で気軽に相談できる先生がいる」46%ですこし厳しい。
- ・「過程での学習時間の確保」低い
- ・「大教大との連携 教師まっすぐ」→参加者5人目標に対して0人参加。
- ・「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」
- ・「八尾翠翔高校に入学してよかった」と思っている生徒と、入学させてよかったという保護者の乖離はなぜか？

【R5年度各学年・分掌達成状況について】

- ・1年 進路変更するものが7名で例年より少ない。
「学校生活が楽しい」→肯定的意見70%
帰属意識をもって学校生活を送るという目標を達成しているのではないか。
英検の取り組み →勉強の仕方を学びながら学習意欲を高めたい。
クラブ入部率70%（来年度も引き続き頑張りたい）
- ・2年 小学校～中学校でコロナの影響を大きく受けた生徒たち。
積極性がまだまだ育っていない様子。
自ら目標を立て、達成に向かっていく姿勢を育むことが引き続き課題。
- ・3年 卒業後の進路→現在も頑張っている。
関西大学に特待生としての合格も。
真ん中がいなくて、上か、下かという印象になってしまったが、教員からの指導、多くの講習の成果が出ている。
反省点→進路先が決まると勉強しなくなる、登校しなくなること。
論理的思考力が養い切れなかった。
- ・教務部 観点別評価実施（2年目）における体制づくり。
生徒一人ひとりの進路実現をサポートできるような選択体制を構築。
- ・生徒指導部（多くの変化あり）
指導よりも支援へ。
宿泊研修は廃止。校内・校外でのオリエンテーションに。
生徒会中心で、スマホの放課後使用OK。
土日のクラブジャージ登校OK
地域から愛される学校づくり。
- ・保健部 すべての検診を滞りなく、大きな病気などもなく終えることができた。
精神的に調子が悪くなる生徒が増。
保健室の来室者数自体は減少。

- ・進路部 スタサブ導入。滞りなく実施できた。
 行事の見直し→懇談週間の午後に行事を入れた。
 コース選択の見直しを行いたい（教務と連携を取りながら）
 CGS（進路情報）充実させていく
- ・総務部 広報活動（新HP、YouTube shortsなどSNSの活用。）
 説明会参加へ繋がった
- ・人権推進委員会
 いじめ対策委員会 8回実施。
 人権的な問題も若干数あったが、「いじめ」はなかった。
- ・自立支援部
 生徒に寄り添う指導を行ってきた。

○横のつながりはよく分かったが、学年を跨いでの連携・縦の連携は？

【R6 学校経営計画について】

- ・目指す学校像 R5よりフルチェンジ キャッチフレーズ「Challenge! Change! Chance!」
- ・中期的目標 「何を具体的にやるのか？」 明らかにしてわかりやすく伝えたい

○地元目線での印象→風紀などの面で、保護者には人気だが、生徒には不人気。

それはなぜなのかということから突き詰めるべき。

親と子の気持ちがぜんぜん違う

【中学生対象アンケートについて】

翠翔の中身が伝わっていない印象。

翠翔の発信するSNSを見てくれている中学生が多い

軽音・バドミントン部に入りたい生徒が多い。

○入ってみたいという魅力をどうアピールするか。

この1年、工夫しているのは伝わったが、中学生に推奨の魅力が浸透しているかが問題。

親の気持ちと生徒の気持ちの乖離が気になる。

中学生が行きたいと思えるよう、魅力発信が必要。

八尾市、柏原市以外、東大阪・大阪市内からも来てもらえるよう、目を広げてみてはどうか。

○コロナの影響で、「宿泊」に対する意識が変化して否定的になっているのでは？

【最後に】

「様々な教育課題が増えてきている。

あと10年でかなりの変化を受け入れなければならないので、今の段階から準備が必要。

そのために、今後もお力添えをお願いします。」